

授 業 要 項

2019年度

授業科目	社会福祉					担当講師	非常勤講師
学年および学科	3年PT・OT	単位	2	総時間数	45	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	患者さん、利用者さん、ご家族の立場に立って、社会保障・社会福祉の歴史、現状、今日的課題、今後の課題等を学ぶ。						
授業計画(テーマ)					授業内容(行動目標)		
1	社会保障の見取り図、ライフサイクルからみた社会保障制度				社会保障制度の仕組みと給付の形態。ライフサイクルと社会保障・社会福祉の理念と制度を理解する。		
2	人権の歩みと日本の社会福祉の歴史				人権の歩みと日本の社会福祉の歴史を理解する。DVD「憲法誕生」上映。		
3	社会保障の制度				社会保障の概念と制度全体の概要を理解する。		
4	社会福祉の基本的な仕組み。社会福祉の機関と施設				社会福祉の基本的な仕組みと社会福祉の機関と施設を理解する。		
5	医療保障、高齢者医療制度				医療保障、高齢者医療制度の基礎知識を理解する。		
6	介護保険制度				介護保険の概要・基礎知識を理解する。		
7	公的扶助(生活保護)				公的扶助(生活保護)の概要を理解する。DVD「朝日裁判」上映。		
8	障害者福祉(身体・知的・精神・発達)、高齢者福祉の概要				障害者福祉(身体・知的・精神・発達)、高齢者福祉の概要を理解する。		
9	子ども家庭福祉				子ども家庭福祉の概要を理解する。		
10	地域福祉				地域福祉の概要を理解する。		
11	保健・医療・福祉の連携				保健・医療・福祉の連携を理解する。		
12	まとめ これからの保健・医療・福祉の課題				これからの保険・医療・福祉の課題を理解する。		
履修上の留意点	授業に際し、受け身でなく能動的に参加してください。						
授業形態	一方通行にならぬよう対話方式に努力する						
教科書	講義の都度 <レジメ・資料>を配布する。						
参考書	「社会保障 第5版」中央法規。『社会福祉概論Ⅰ 現代社会と福祉』2016年、全国社会福祉協議会。						
評価方法	評価時期:学習後。評価方法:出席状況と課題レポート:「授業で学んだことを述べよ」の評価						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	理学療法研究法			担当講師 担当教員	非常勤講師 近藤 登、伊藤 剛、中村 敦子、嵯峨 守人、川瀬 翔太		
学年および学科	3年PT	単位	2	総時間数	60時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	1. 理学療法分野における科学的な研究の手続きについて学ぶ。 2. 研究法的一端を経験し、考え方を学ぶ。						
	授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)		
1	研究法総論① (伊藤)				「研究」とは何かを学びながら、その基本的知識を理解する。研究の様式、研究の流れを学ぶと共に、研究の倫理と管理について学ぶ。		
2	研究法総論② (米澤)				研究計画の立案について学ぶ		
3	研究法総論③ (米澤)				研究法と統計学との関わりを学ぶ		
4	研究法各論(各教員)				理学療法分野における研究の意義を知る。研究の過程と流れを理解し、実践できる。研究の目的を明確にできる。研究の方法論を調査、決定できる。研究結果から考察を推測し、自分達の考えを述べることができる。研究発表を実施することができる。		
履修上の 留意点	グループでの研究課題においては、担当指導教員に指導を仰ぐこと。						
授業形態	講義 グループワーク グループ発表						
教科書	特になし						
参考書	図説 リハビリテーション技術シリーズ: 国立医療学会 適宜紹介						
評価方法	研究課題 発表内容						
担当者の 実務経験	病院勤務による実務経験あり、研究報告経験あり						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	理学療法治療学 実習Ⅰ					担当講師 担当教員	院内理学療法士 中村 敦子、川瀬 翔太
学年および学科	3年PT	単位	1	総時間数	45時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	中枢神経系理学療法治療学について学ぶ。						
授業計画(テーマ)					授業内容(行動目標)		
1	脊髄小脳変性症の理学療法 筋萎縮性側索硬化症の理学療法 筋萎縮性側索硬化症の患者に対する対応 (院内理学療法士)				脊髄小脳変性症の理学療法の臨床を学ぶ 筋萎縮性側索硬化症の理学療法の臨床を学ぶ グループディスカッションにて筋萎縮性側索硬化症患者を理解する		
2	パーキンソン病の理学療法 (院内理学療法士)				パーキンソン病の理学療法の臨床を学ぶ		
3	ギランバレー症候群の理学療法 多発性硬化症の理学療法 (院内理学療法士)				多発性硬化症の理学療法の臨床を学ぶ ギランバレー症候群の理学療法の臨床を学ぶ		
4	筋萎縮性側索硬化症 (川瀬)				筋萎縮性側索硬化症について、その病態の概略を説明することができ、障害の特徴や理学療法上での注意点および病期に応じた理学療法治療プログラムを列挙できる。		
5	多発性硬化症 (川瀬)				多発性硬化症について、その病態の概略を説明することができ、障害の特徴や理学療法におけるリスク管理、病期に応じた理学療法治療プログラムを列挙できる。		
6	ギランバレー症候群 (川瀬)				ギランバレー症候群について、その病態の概略を説明することができ、障害の特徴や理学療法上での注意点および病期に応じた理学療法治療プログラムを列挙できる。		
7	脊髄小脳変性症 (川瀬)				脊髄小脳変性症について、その病態の概略を説明することができ、障害の特徴から理学療法治療プログラムを列挙できる。また、病期に応じた目標設定と治療プログラムを選択できる。		
8	パーキンソン病 (川瀬)				パーキンソン病について、その病態の概略を説明することができ、障害の特徴や理学療法上での注意点および病期に応じた理学療法治療プログラムを列挙できる。		
9	めまい (川瀬)				めまいについて、その病態の概略を説明することができ、理学療法治療プログラムを列挙できる。		
10	脳血管障害 総論、急性期 (中村)				脳血管障害片麻痺患者の理学療法の考え方を説明できる。脳血管障害の治療におけるリスク管理を説明できる。脳血管障害患者の離床を図る上で安全に施行する手順を説明できる。脳血管障害患者の2次的障害の予防を図るための対応を説明できる。脳血管障害患者の予後予測を説明できる。		
11	脳血管障害 回復期、維持期 (中村)				脳血管障害患者の症状に対する評価を選択し、その対策を説明できる(随意運動、痙縮、合併症など)。脳血管障害患者の動作の特徴をとらえ、その原因を考察し対策を説明することができる。		
12	脳血管障害患者の評価と実際 (中村)				症例を利用して、評価、統合と解釈ができる。治療の一端を学ぶ。		
13	脳血管障害回復期の理学療法 (院内理学療法士)				回復期における脳血管障害患者に対する評価、治療について学ぶ		
14	脳血管障害維持期の理学療法 (院内理学療法士)				維持期における脳血管障害患者に対する評価、治療について学ぶ		
履修上の留意点	解剖生理、疾患、病態の理解をしておくこと。自ら調べ解釈や考察を進めていくこと。						
授業形態	講義・実技実習・グループワーク(グループ発表)						
教科書	千田富義・高見彰淑:脳卒中, メジカルビュー社 沼田憲治:脳機能の基礎知識と神経症候ケーススタディ, メジカルビュー社						
参考書	原寛美・吉尾雅春編:脳卒中理学療法の理論と技術, メジカルビュー社 安藤一也・杉浦公也:リハビリテーションのための神経内科学, 医歯薬出版株式会社 脊髄小脳変性マニュアル決定版 新ALSケアブック第2版 すべてわかるALS・運動ニューロン疾患 小脳と運動失調小脳はなにをしているのか						
評価方法	筆記試験・レポート・グループ発表・授業態度						
担当教員の 実務経験	病院勤務による実務経験あり						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	理学療法治療学 実習Ⅱ					担当講師	非常勤講師 院内理学療法士
学年および学科	3年PT	単位	1	総時間数	45時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	小児理学療法の基礎となる運動発達を理解し、臨床の場面で活用できる定性的動作分析を学ぶ。 片麻痺のADL上の移乗動作と機能統合訓練上の移乗介助動作の違いを学ぶ。 痙縮に関連した基礎知識を確実なものとし、臨床の場面で活用できるようにする。 代表的な小児疾患の特徴の把握と理学療法を行うための基本的な知識を身につける。 理学療法の立場から小児の正常発達を知り、比較することで発達障害の評価や治療の基本を学ぶ。 進行性筋ジストロフィー患児者の置かれた現状と治療としての装具・車いすについて学ぶ。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	実技から理学療法を科学する (非常勤講師)			解剖学・生理学・運動学・心理学などが臨床場面でどのように活用されているかを示す。その中から基礎知識の大切さを理解する。(残された課題は、動作分析の時間中に行なう)			
2	情動と理学療法 (非常勤講師)			情動と大脳辺縁系、情動と神経伝達物質、ストレスと自律神経、内分泌、免疫の関連を理解し、社会性に関わる前頭前野の働きを駆使した理学療法の提供を考える。			
3	動作分析 (非常勤講師)			定性的・定量的動作分析、運動・動作・行為、ADL上の移乗動作と機能統合訓練上の移乗動作の違いを理解し、その基礎となる正常発達に沿った基本動作について体験する。			
4	動作分析 (非常勤講師)			基本動作における脳卒中後の片麻痺のADL上の移乗動作と機能統合訓練上の移乗動作の違いを経験し、臨床の場で活用できるよう学習する。動作分析レポート課題の提示。			
5	動作分析 (非常勤講師)			残った動作分析項目とまとめ。実技テスト(講義中に指示したKey point of control項目、正常運動発達の背臥位から立位まで、その他、講義時指示する)			
6	痙縮状態に対する準備療法 (非常勤講師)			痙縮概念、陽性徴候と陰性徴候、運動障害と運動麻痺、痙縮の定義、筋の過活動、検査、理学療法について解説する。			
7	痙縮状態に対する準備療法 中枢神経系の理学療法の基礎知識 (非常勤講師)			筋紡錘、伸張反射、折りたたみナイフ現象、H反射について解説する。			
8	中枢神経系の理学療法の基礎知識 (非常勤講師)			錐体路、 α ・ γ 系、筋線維タイプ別、筋膜・筋線維膜、疼痛について解説する。			
9	デュシャンヌ型筋ジストロフィーと理学療法 (非常勤講師)			筋ジストロフィーの進行過程による病態の変化を知る ステージ別の理学療法を知る			
10	二分脊椎と理学療法 (非常勤講師)			残存レベルによる病態の違いを知る 残存レベルに合わせた理学療法を知る			
11	小児痙縮の特徴、脳性麻痺概論 (非常勤講師)			脳性麻痺を中心とした痙縮の特徴を知る 脳性麻痺のタイプ別特徴を知る			
12	脳性麻痺児の類型別運動発達と理学療法 (非常勤講師)			脳性麻痺のタイプ別の運動発達を実技を通して知る			
13	正常発達と発達障害の理解 発達障害の理解と評価 (院内理学療法士)			正常発達の流れを理学療法の視点で説明できる。正常発達との比較から発達障害を説明できる。発達障害を評価するために必要な事項を列挙できる。発達障害の評価と治療の考え方を説明できる。運動まひのない発達障害の理学療法について説明できる			
14	筋ジストロフィーの装具・車いす (院内理学療法士)			変形の「発達」を説明できる。変形の「発達」からみた装具作成の考え方を説明できる。・変形の「発達」からみた車いす作成の考え方を説明できる			
履修上の留意点	実技実習においては、実技実習ができる服装で参加する。講義をよく聴き、予習・復習を怠らないこと。 筋ジストロフィーについては厚生労働省HPからも有益な情報を得られる為、検索しておくことをお勧めする。						
授業形態	利他の心を活用した能動型学習を中心にした講義と実技である。 テキスト、配布資料に基づいた講義形式、双方向形式およびメディアを通じた実習形式とする。						
教科書	講師作成の資料集、 小児理学療法学テキスト：南江堂						
参考書	中村隆一 著:基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版 沼田憲治 著:脳機能の基礎知識と神経症候ケーススタディ マジカルビュー2017 千田富義 編:リハ実践テクニック 脳卒中 メジカルビュー 第3版 2017 240動画でわかる赤ちゃんの発達地図 木原秀樹 MCメディカ出版 正常発達 著Jung Sun Hong 三輪書店 脳性麻痺児の24時間姿勢ケア 監訳 今川忠男 乳児検診の神経学的チェック法 小児理学療法学テキスト 監修:細田多穂 南江堂						
評価方法	筆記試験・レポート・授業態度						
担当教員の 実務経験	病院勤務による実務経験あり						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	理学療法治療学 実習Ⅲ			担当講師	非常勤講師、院内理学療法士、伊藤剛		
学年および学科	3年PT	単位	1	総時間数	45時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	内部障害理学療法治療学について学ぶ。						
	授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)		
1	呼吸リハビリテーション (非常勤講師)				呼吸リハビリテーションの考えを理解し、目的、体系について説明できる。 体位排痰法、呼吸介助法を説明し、実施できる。		
2	心臓リハビリテーションの実際 (非常勤講師)				運動と呼吸・循環反応 心臓リハビリテーション		
3	腎疾患の理学療法 (非常勤講師)				腎臓の解剖と機能の復習をするとともに、 腎疾患患者における運動機能低下のメカニズムと 慢性腎不全患者に対する理学療法について学ぶ		
4	エネルギー代謝 (非常勤講師)				エネルギー代謝について、エネルギーの供給系、 エネルギー基質、運動時のエネルギー代謝について学ぶ		
5	呼吸器疾患の理学療法 (院内理学療法士)				呼吸器の生理学、解剖学 呼吸不全の病態、酸素療法、人工呼吸器 急性呼吸不全 慢性呼吸不全		
6	がん疾患のリハビリテーション (院内理学療法士)				がんのリハビリテーションの概要 緩和ケアについて 症例紹介 リンパドレナージ		
7	循環器疾患の理学療法 (伊藤)				循環器の生理学、解剖学、心電図 心疾患の病態と理学療法		
履修上の 留意点	解剖学・生理学・基礎運動学で学んだ内容を再度確認しておくこと。 事前に配付する資料について、内容を確認し不明な点は、事前学習としてノートにまとめる。また、授業中解決できない内容については、終了後に質問し、解決するようにして下さい。						
授業形態	講義・実技実習・グループワーク(グループ発表)						
教科書	理学療法テキスト 内部障害理学療法治療学 呼吸 中山書店						
参考書	内部障害理学療法学テキスト 改訂第2版 南江堂 人体機能生理学 南江堂 目でみるからだのメカニズム 医学書院 呼吸運動療法の理論と技術:メディカルビュー社 病気がみえる(循環器):メディカルビュー社						
評価方法	筆記試験・レポート・グループ発表・授業態度						
担当教員の 実務経験	病院勤務による実務経験あり						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	義肢装具学実習					担当講師	非常勤講師
学年および学科	3年PT	単位	1単位	総時間数	45時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	医療の現場で保存療法として装具療法は多くの科に渡り使用されているようになっている。 この実習では現物に触れてもらい少しでも装具を身近に感じてもらい、活用方法を見いだせるように義肢装具の種類と適応を学習して頂く。						
授業計画(テーマ)					授業内容(行動目標)		
1	総論				治療用装具と更生用装具の違いを理解し、それぞれの制度を説明できる		
2	臨床での義肢装具士との関り 1				グループワークを通じて臨床での義肢装具士との関りを学ぶ		
3	体幹装具				体幹装具の機能を学ぶ		
4	短下肢装具				短下肢装具の機能を理解し、分類できるようなる		
5	装具製作				リハビリテーションでよく使用される短下肢装具を作製するギプス採型を体験し、適合に必要な修正を施す		
6	靴・足底装具				靴型装具・足底装具の名称や機能を学ぶ		
7	上肢／下肢				上肢装具・下肢装具の名称・特徴と適応を学ぶ。		
8	装具製作				リハビリテーションでよく使用される短下肢装具を作製する装具のトリミングラインを検討し、仕上げる。歩行を観察し装具の評価を行う		
9	義足				よく使用される義足のパーツを手に取り、調整方法や機能・特徴を学ぶ。		
10	義手／筋電義手デモ				義手の種類を学び、実際に義手を使用し動かせる電動義手使用者のデモを見学し、筋電義手の特徴を理解する。		
11	臨床での義肢装具士との関り 2				グループワークを通じて臨床での義肢装具士との関りを学ぶ		
12	車いす・座位保持／トピックス				介護領域で使用される事の多くなった車いす、座位保持装置を学ぶ。 最新の義肢装具について学習する。		
履修上の留意点	2年生時に、義肢装具の基礎を座学にて学習済みで有り、3年の実習ではそれをベースに現物に触れてもらうようになる。種類目的などは復習されていることが望ましい。						
授業形態	スライドによる講義と現物の装着、製作、調整						
教科書	義肢装具のチェックポイント						
参考書	義肢装具学						
評価方法	グループワークのレポートと授業後に行う試験で評価する						
担当教員の 実務経験	義肢装具士としての実務経験あり						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	理学療法治療学 演習Ⅰ			担当講師 担当教員	非常勤講師、近藤 登		
学年および学科	3年PT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	理学療法のトピックスを学ぶ ・PNFの基本パターンができるようになる ・理学療法における物理療法の位置づけおよびマイオセラピーについて理解する。 ・糖尿病理学療法の基礎を理解し、実際の理学療法場面での応用を学ぶ。 ・脳卒中片麻痺を中心とした中枢神経疾患の理学療法について、講義・実技を通して学習する。 ・理学療法を行う上でのリスク管理について学ぶ。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	PNF (近藤)			PNFの概念について(講義) PNFの基本テクニック、基本パターンの学習(実技)			
2	中枢神経疾患の理学療法、歴史的変遷 脳卒中ガイドラインに基づくアプローチ (非常勤講師)			中枢神経疾患に関する理学療法の歴史的変遷(ボバース概念に基づくアプローチを含む) 脳卒中ガイドラインについて 脳卒中片麻痺患者の評価・理学療法プログラムの立案ができ、文章で説明できる その他、急性期病院でのトピックス			
3	マイオセラピー (非常勤講師)			理学療法とは 物理療法とは 物理療法の生理学的効果 物理療法の適応と禁忌 物理療法の種類 物理療法各論 実技			
4	リスク管理 (非常勤講師)			脳神経疾患に対するリスク管理 整形疾患に対するリスク管理 呼吸・循環器疾患に対するリスク管理			
5	糖尿病の理学療法 (非常勤講師)			糖尿病の病態・検査と治療 糖尿病の合併症と治療 糖尿病患者の理学療法評価 糖尿病患者の運動療法 糖尿病患者の患者教育 まとめ			
履修上の 留意点	事前に理学療法ハンドブックのPNFをよく読んで理解しておくこと 2年生までの中枢神経系の解剖学、生理学、脳卒中片麻痺患者の理学療法について、リスク管理について復習しておくこと 実技を行うので、実技実習できるように準備しておくこと						
授業形態	講義・実技実習・グループワーク(グループ発表)						
教科書	石川朗総編集:理学療法テキスト 内部障害理学療法 循環・代謝 第2版 中山書店 吉尾雅春:標準理学療法学 運動療法学総論 第4版 医学書院						
参考書	理学療法ハンドブック 標準理学療法学 専門分野 物理療法学 第3版 医学書院 2008 物理療法学 第2版 金原出版 2012 理学療法学テキストⅩ 物理療法学 第2版 神陵文庫 2009 理学療法学 ゴールド・マスター・テキスト3 第1版 物理療法学 メジカルビュー社 2009 ベッドサイドの物理療法 第1版 医道の日本社 1991 リハビリテーション医学全書8. 物理療法 第3版 医歯薬出版 1991 脳卒中ガイドライン2015 協企画						
評価方法	筆記試験・レポート・グループ発表・授業態度						
担当教員の 実務経験	病院勤務による実務経験あり						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	理学療法治療学 演習Ⅱ					担当講師	近藤 登、伊藤 剛 嵯峨 守人、中村 敦子
学年および学科	3年PT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	医学の基礎から、専門分野までの知識を再確認し、整理する。						
授業計画(テーマ)					授業内容(行動目標)		
1	個人課題と発表				昨年度の国家試験を活用し、問題の解釈の仕方、解答への導き方について必要な知識を確認し、解答に至るまでの過程を経験する。また、発表を通して、各分野における解釈に至るまでの考え方を共有できる。		
2	グループ課題と発表				今まで学習した知識を振り返り、その分野における基礎的な知識やポイントを把握できる。また、発表を通じて、知識を共有し、定着や補強が行える。		
履修上の留意点	分かりやすい発表に努め、授業内でしっかり把握・理解できるよう集中して授業に臨むこと。作成された資料が後の自己学習にも活用できるように準備する。また、発表で聞いた内容を資料に補足するなど努めること。						
授業形態	講義、個人発表、グループ発表						
教科書	特になし						
参考書							
評価方法	客観試験						
担当教員の 実務経験	病院勤務による実務経験あり						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	理学療法治療学 演習Ⅲ					担当講師	非常勤講師
学年および学科	3年PT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	脊髄損傷および整形外科疾患の理学療法について学ぶ。						
授業計画(テーマ)					授業内容(行動目標)		
1	脊髄損傷の理学療法 (非常勤講師)				脊椎・脊髄の解剖 脊髄・末梢神経の神経生理学 脊髄損傷の臨床症状 呼吸器の障害 脊髄損傷の臨床症状 褥瘡の病理および治療 脊髄損傷の臨床症状 尿路管理 排尿・排便の臨床症状 脊髄損傷の随伴症状・合併症 脊髄損傷の運動学 残存機能レベルと諸動作 脊髄損傷の検査・測定 ASIA ADL検査 動作分析 脊髄損傷の治療技術 筋力強化・可動域訓練 脊髄損傷の治療技術 諸動作の観察 ADL訓練 脊髄損傷の動作分析 ビデオ演習 脊髄損傷の演習 ビデオと通じて治療手技を学ぶ		
2	整形外科疾患の理学療法 (非常勤講師)				病態・障害の把握や解剖学等の基礎的知識が理学療法実施 に対していかに重要かを理解する。 評価・治療を具現化するための具体的方法論を考え体現する ことで考え方、技術を学ぶ。 最近、整形外科部門での超音波画像診断装置を使用した学会 発表や臨床の応用が増えてきているため実際の使い方や臨床 応用を学ぶ。		
履修上の 留意点							
授業形態	講義・実技実習・グループワーク(グループ発表)、ビデオ上映						
教科書	頸髄損傷のリハビリテーション ― 国立身体障害者リハビリテーションセンター・マニュアル ― (株)協同医書出版社						
参考書							
評価方法	筆記試験・レポート・授業態度						
担当教員の 実務経験	病院勤務による実務経験あり						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	地域理学療法学			担当講師	非常勤講師、院内医療社会事業専門員、 院内理学療法士、院内言語聴覚士		
学年および学科	3年PT	単位	2	総時間数	45時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	地域リハビリテーションを考える上で、必要な事項を学ぶ。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	地域リハビリテーションと介護予防の現状 (非常勤講師)			地域リハビリテーションの流れ、現状の理解する。具体的な介護予防を理解する。			
2	介護保険の概要、地域リハビリテーションでの PTの役割を学ぶ (非常勤講師)			・最近のリハビリテーション医療の流れ及び平成30年の診療報酬介護報酬の改正から地域包括ケアシステムの概要について(総論的に) ・地域リハビリテーションのついて(総論的に)、介護保険の概要について ・回復期リハビリテーション病棟からの在宅支援と理学療法士の役割について ・在宅支援と通所リハビリテーション・・・訪問リハビリテーションへのながれについて ・老人保険施設での理学療法士の役割についてと課題発表表 ・地域包括支援センターについて、また、介護予防を中心とする予防活動における理学療法士の役割と地域連携の動向について、課題発表			
3	医療社会事業専門職(MSW)の実際 (院内医療社会事業専門員)			・医療ソーシャルワーカーの業務を知る ・社会資源とその活用について知る			
4	ライン類の基礎知識 (院内理学療法士)			・ライン類の種類と目的 ・体の部位別に挿入留置されるラインを把握する ・ドレーン・チューブ類の使用・管理に関するヒヤリハット ・訓練時のライン類の扱いと注意点 ・抜去時の対応について			
5	青年海外協力隊の活動について、社会参加と国際 貢献におけるPTの役割 (非常勤講師、院内理学療法士)			・青年海外協力隊の概要 ・理学療法士としての災害医療について(DMAT・JDRIについて)			
6	トランスファーについて (非常勤講師)			・トランスファーに必要な理論について説明することができる。 ・患者の状況に応じて方法を選択することができる。			
7	嚥下障害と評価及びリハビリテーション (院内言語聴覚士)			・摂食嚥下とは何か ・摂食嚥下障害の病態 ・摂食嚥下障害の原因 ・摂食嚥下機能の検査・評価 ・摂食嚥下リハビリテーションについて			
8	小児正常発達、脳性麻痺、重症心身障害児 (非常勤講師)			・小児の正常発達とそれに伴う反射・反応 ・脳性麻痺の定義 ・脳性麻痺の各評価 ・重症心身障害児の定義 ・重症心身障害児の理学療法について			
9	住環境整備 (非常勤講師)			・住環境整備・福祉用具に関する制度 ・退院後の在宅生活について ・住宅改修の知識 ・福祉用具の知識			
履修上の 留意点	2年次に学んだ内容について(解剖、生理、発達など)復習しておくこと						
授業形態	講義 グループ討議 実技						
教科書	小児理学療法学テキスト(南江堂)						
参考書	浜村 明德・石川 誠・栗原 正紀・斉藤 正身、日本リハビリテーション病院・施設協会：高齢者リハビリテーション医療のグランドデザイン 青海社 厚生労働省医療安全対策 ヒヤリハット事例収集事業の集計結果 チューブ別管理方法と抜去時の対応(日本集中治療医学会 看護部会)						
評価方法	筆記試験・レポート・グループ発表・授業態度						
担当教員の 実務経験	病院勤務による実務経験あり						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	地域理学療法学 実習			担当講師	非常勤講師、院内管理栄養士、院内言語聴覚士、嵯峨 守人、伊藤 剛		
学年および学科	3年PT	単位	1	総時間数	45時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	地域リハビリテーションに関わる用語について説明できる。 地域リハビリテーション施設の見学を通し、そのシステム、PTの関わりを考える。 産業保健に対する理学療法および健康維持・増進における理学療法士の関わりについて理解する 整形外科疾患・熱傷・スポーツ外傷・障害における理学療法の考え方を学ぶ。 在宅酸素療法、失語症、栄養について学ぶ						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	施設見学 通所介護と通所リハビリテーション (非常勤講師)			少子超高齢化問題、地域包括ケアシステム、リハビリテーションの流れ、地域連携の重要性、通所介護と通所リハビリテーション、通所介護リハビネス梅森坂見学			
2	施設見学 医療と福祉の複合施設で働くPTの理解 (非常勤講師)			救護施設、 特別養護老人ホーム、介護療養型医療施設、附属病院、リハビリテーション訓練室			
3	施設見学 回復期から生活期に関係する事業、及び予防事業 (非常勤講師)			回復期から生活期に関係する事業、及び予防事業(二次予防事業)の一部を見学する			
4	在宅酸素療法 (非常勤講師)			呼吸の基礎知識の復習と呼吸機能障害および酸素療法の意義について理解を深める。 在宅酸素療法関連器機の使用について一部経験する。			
5	スポーツ障害に対する理学療法 (非常勤講師)			スポーツによって生じる外傷・障害に対するリハビリテーションおよび理学療法士としての対応			
6	栄養管理の実際 (院内管理栄養士)			三大栄養素、ビタミン、ミネラルについて リハビリテーション+栄養の併用による期待される事柄について 摂食、嚥下関連における栄養の役割について			
7	失語症のリハビリテーション (院内言語聴覚士)			成人コミュニケーション障害の概論 失語症の言語症状、下位タイプ、評価方法について 失語症患者とのコミュニケーションについて			
8	整形外科疾患の理学療法 (非常勤講師)			画像所見(単純X線像)から運動療法に必要な情報を読み取る 急性期における組織の回復課程を推察する 検査・測定内容を選択、実施のシュミレーションを行う 評価と運動療法の実際を学ぶ			
9	熱傷の理学療法 (伊藤)			熱傷後の運動療法の目的および進め方と留意点を理解する			
10	地域施設の概要の整理、報告 (嵯峨)			オリエンテーション、課題の準備など コミュニケーション技法、接遇について 産業理学療法と健康維持・増進活動 課題発表 地域リハビリテーション施設の見学内容発表と課題のまとめ			
履修上の 留意点	入所者や職員に対する礼節 見学中高齢者の尊厳を尊ぶこと。我が国の少子超高齢化問題について理解しておくこと。地域包括ケアシステムについて理解しておくこと。 持ち物 解剖学書 水性ペン 短パン						
授業形態	講義・実技実習・グループワーク(グループ発表)・施設見学						
教科書	理学療法テキスト 内部障害理学療法治療学 呼吸 中山書店						
参考書	地域理学療法学 医学書院、地域リハビリテーション原論 医歯薬出版 浅野昭裕著:運動療法に役立つ単純X線像の読み方、赤羽良和執筆:肩関節拘縮の評価と運動療法 松本正知著:骨折の機能解剖学的運動療法、林典夫著:運動療法のための運動器超音波機能解剖 拘縮治療との接点						
評価方法	筆記試験・レポート・グループ発表・授業態度						
担当教員の 実務経験	病院勤務による実務経験あり						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	作業療法研究法					担当教員	水野 準也、梅田 雄嗣 塩谷 絵梨
学年および学科	3年生OT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	1. 作業療法士が行う研究方法を学ぶ。 2. 研究を行う上で基本的な手続きを理解し、それをグループで実施する。 3. 学んだ知識を用いて、実際にグループで研究テーマを決め、データを分析し論文を完成させる。 (卒業論文として完成させ製本する)						
授業計画(テーマ)					授業内容(行動目標)		
1	「研究」について(総論) (水野)				研究の目的や意義を理解することができる。 研究の種類・分類について理解することができる。 研究の流れを説明することができる。 研究疑問について理解することができる。 研究計画の立案から計画書作成、実験の実施、報告および発表における留意点を理解できる。 実験的研究と、そのデザインについて理解することができる。		
2	研究計画書・インフォームドコンセント・研究同意書について (水野)				研究計画書の作成方法を理解および説明することができる。 インフォームドコンセントについて理解することができる。 研究同意書の作成方法を理解および説明することができる。		
3	統計学入門 (水野)				尺度の種類について説明することができる。 基本統計量を理解および説明することができる。 正規分布について理解することができる。 標準偏差について理解することができる。 帰無仮説および対立仮説について理解することができる。 統計的仮説検定について理解することができる。 P値について理解することができる。 パラメトリックおよびノンパラメトリック検定について理解することができる。		
4	研究計画書発表 (水野、梅田、塩谷)				各グループで作成した研究計画書を発表することができる。		
5	グループワーク指導 (水野、梅田、塩谷)				指定されたテーマに関し、担当教員よりグループで指導を受け、研究計画を立案し、実験の実施・分析・考察を踏まえ、論文を作成することができる。		
6	グループワーク指導 (水野、梅田、塩谷)						
7	グループワーク指導 (水野、梅田、塩谷)						
8	グループワーク指導 (水野、梅田、塩谷)						
9	グループワーク指導 (水野、梅田、塩谷)						
履修上の留意点	決められたグループで研究を実施する。その結果を卒業論文として完成することが課題である。なお、前期に研究計画を発表し、実験を行い、後期においては卒業論文を発表する機会を持ち、プレゼンテーションを実施する。						
授業形態	講義およびグループ討議を主とする。学習資源としてパワーポイントを使用する。						
教科書	作業療法士のための研究法入門 鎌倉矩子 他 三輪書店						
参考書	適宜紹介する。						
評価方法	研究計画書(発表を含む)および研究結果の提出とその内容;100点						
担当教員の 実務経験	病院で作業療法に従事、研究報告経験あり						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	作業治療学内部疾患Ⅱ					担当講師	山田 剛史、塩谷 絵梨
学年および学科	3年生OT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	循環器疾患、呼吸器疾患および代謝疾患に対する作業療法を実践できるようにその病態を理解し、作業療法の治療、指導、援助法を修得する。 がんのリハビリテーションの概要を理解し、がんに対する作業療法における評価法やプログラムについて学ぶ。						
授業計画(テーマ)					授業内容(行動目標)		
1	呼吸器系疾患 (山田)				①呼吸器の構造と機能について説明できる。 ②呼吸運動、肺気量、換気、呼吸気の組成、調節機能について説明できる。 ③呼吸器疾患の病態と障害について説明できる。 ④作業療法の目的、評価、訓練・ADL指導について説明できる。		
2	がんのリハビリテーション (山田)				①がんのリハビリテーションについて、これが必要とされる社会的背景、がんのリハビリテーション分類、対象となる障害の種類について説明できる。 ②がんのリハビリテーションにおける、作業療法評価、アプローチについて説明できる。 ③事例を通し、がんのリハビリテーションを実施する上での注意点や、どのようにチーム内で連携をとっていくか、説明できる。		
3	症例検討 (塩谷)				①症例の病態と障害像を説明できる。 ②問題点を列挙できる。 ③治療目標(長期目標・短期目標)を設定できる。 ④作業療法プログラムを立案することができる。		
履修上の 留意点	症例検討;症例は脳血管障害(内部疾患を合併)とする。既習内容を十分に確認して授業に臨むこと						
授業形態	講義、グループワーク						
教科書	メディカルスタッフのための神経内科学(医歯薬出版) 作業療法実践の仕組み(協同医書出版) 標準作業療法学 身体機能作業療法学(医学書院) 病気がみえる 循環器、呼吸器(メディックメディア)						
参考書	1)辻哲也編集:がんのリハビリテーションマニュアル 周術期から緩和ケアまで 医学書院 2)岩崎テル子編:標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 医学書院						
評価方法	呼吸器疾患;期末試験(筆記試験) 30点 がん;グループ発表、レポート 20点 症例検討;レポート(個人課題) 50点						
担当教員の 実務経験	病院で身体障害領域の作業療法に従事						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	作業治療学精神障害 演習					担当教員	水野 準也、梅田 雄嗣
学年および学科	3年生OT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	精神医学および治療学・評価学で学んだこと、臨床実習で体験したことをもとに、精神障害分野の作業療法実践に関する知識・技術を学び、理解を深める。						
授業計画(テーマ)					授業内容(行動目標)		
1 (水野)	急性期作業療法の実際について (水野)				急性期作業療法の実際について講義や文献などを用いて理解することができる。 演習を通して、急性期作業療法のアプローチについて考えることができる。		
2 (水野)	退院支援に対する作業療法の実際について (水野)				退院支援における作業療法の実際について講義や文献などを用いて理解することができる。 演習を通して、退院支援における作業療法のアプローチについて考えることができる。		
3 (梅田)	地域生活支援に対する作業療法の実際について (水野)				地域生活支援における作業療法の実際(外来作業療法、ACTなど)について講義や文献などを用いて理解することができる。 演習を通して、地域生活支援における作業療法のアプローチについて考えることができる。		
履修上の 留意点							
授業形態	講義、演習(症例検討・文献抄読)、グループ討議および発表						
教科書	山根 寛：精神障害と作業療法 治る・治すから生きるへ 第3版 富岡 詔子・小林 正義：作業療法学全書 改訂第3版 作業治療学2 精神障害						
参考書	適宜紹介する。						
評価方法	文献抄読まとめ(45点)、発表レジュメおよび発表内容(55点)						
担当教員の 実務経験	病院で精神障害領域の作業療法に従事						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	作業治療学 老年期障害Ⅱ					担当教員 担当講師	奥 登貴子、梅田 雄嗣 藤部 百代
学年および学科	3年生OT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	老年期作業療法のプロセスを理解し、老年期の特徴に応じた支援内容について学ぶ。 認知症の症状や評価について理解し、認知症患者の生活のイメージを深める。						
授業計画(テーマ)					授業内容(行動目標)		
1	老年期の特徴 (奥)				・老年期の特徴についてICFを用いて説明できる。		
2	老年期作業療法について (奥)				・老年期作業療法の評価について説明できる。 ・老年期作業療法の目的について説明できる。 ・老年期作業療法の介入方法について説明できる。		
3	老年期作業療法の実際について (奥)				・訪問、通所、入所における基本的な支援内容を理解できる。		
4	認知症について (梅田)				・認知症の概念、症状や一般的特徴、類型を理解できる。 ・認知症の中核症状と周辺症状を理解し、説明できる。		
5	認知症の評価の目的と方法について (梅田)				・老年期および認知症患者に対する評価の目的や方法、留意点について理解できる。		
6	認知症患者に対する情報収集方法と生活 の捉え方 (梅田)				・認知症患者に対する情報収集のポイントや、得られた情報と生活をつなげて理解できる。		
7	認知症患者に対する作業療法の介入① (梅田)				・認知症患者の特性に合わせた関わり、焦点化、目標設定、プログラム立案の流れを大まかに理解できる。		
8	認知症患者に対する作業療法の介入② (梅田)				・臨床における認知症サポートチームの活動について理解できる。		
履修上の 留意点	2年次の作業治療学老年期障害Ⅰと地域作業療法学で学習した内容と関連するので、整理して授業に臨むこと。						
授業形態	講義 演習						
教科書	標準作業療法学 高齢期作業療法学 医学書院						
参考書	地域作業療法学の介護保険関連レポート						
評価方法	期末試験;奥(50点)、梅田(30点) レポート;藤部(10点) 症例検討;梅田(10点)						
担当者の 実務経験	奥:デイケア・訪問にて老年期障害領域の作業療法に従事 梅田:病院で作業療法に従事 藤部:病院で作業療法士として認知症サポートチームに参加						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	作業治療学 発達障害					担当講師	非常勤講師 院内作業療法士
学年および学科	3年生OT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	発達障害分野の作業療法の実践を学ぶ						
授業計画(テーマ)					授業内容(行動目標)		
1	脳性麻痺児アトニーゼ型の臨床像の理解 (非常勤講師)				アトニーゼ型の症状を理解する。 問題点の抽出と結びつけを考え、具体的な治療場面設定を考案 してみる		
2	脳性麻痺児アトニーゼ型の治療と援助の理解 (非常勤講師)				ビデオ症例を基に問題点の抽出と具体的な治療場面をグループ ワークする		
3	作業療法の治療の流れ 評価方法 面接、観察、検査 (非常勤講師)				面接から実際のアプローチまでの流れを説明できる。 面接、観察、検査について内容と特性を説明できる。		
4	評価(行動観察) 治療 演習 (非常勤講師)				行動観察から治療を組み立てることに必要な対象児の特徴をひ ろい出すことができる。 提示情報と行動観察から治療目標の設定ができる。 モデルケースを用いて治療の組み立てができる。		
5	脳性麻痺の基礎知識 (院内作業療法士)				脳性麻痺の疾患・障害・臨床像について知ることができる		
6	脳性麻痺の作業療法評価、治療 (院内作業療法士)				脳性麻痺の作業療法の評価および治療について説明できる		
7	重症心身障害児の病態の理解と援助の視点 (院内作業療法士)				発達障害について興味関心が持てる 脳性まひについて理解が深まる 原始反射について理解が深まる 筋緊張について理解が深まる 重症心身障害児・者の理解が深まる		
履修上の 留意点	人間発達学・運動学・解剖学・発達障害関係の授業内容を十分復習しておくこと。						
授業形態	講義、グループワーク、グループ発表、実習						
教科書	配布資料						
参考書	子どもセラピーの思考プロセス 子どもの能力から考える発達障害領域の作業療法アプローチ 発達障害と作業療法(実践編) 三輪書店 重症心身障害療育マニュアル 医歯薬出版						
評価方法	レポート 非常勤講師(25点)、非常勤講師(25点)、院内作業療法士(35点)、院内作業療法士(15点)						
担当講師の 実務経験	病院で発達障害領域の作業療法に従事						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	作業治療学認知障害					担当講師	藤部 百代、 院内言語聴覚士
学年および学科	3年生OT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	高次脳機能障害の基本的概念・臨床像を踏まえた上で、評価および介入方法について学ぶ。						
授業計画(テーマ)					授業内容(行動目標)		
1	高次脳機能障害とは (藤部)				・高次脳機能障害の基本的概念と対象疾患・障害について説明できる。 ・高次脳機能障害の評価について基本的な考え方を説明できる。 ・高次脳機能障害の治療について基本的な考え方を説明できる。		
2	失行について (藤部)				・失行の概念・症状・分類について説明できる。 ・失行の評価内容と手順を説明できる。 ・失行の訓練の基本原則について説明できる。		
3	失認について (藤部)				・失認の概念・症状・分類について説明できる。 ・失認の評価内容と手順を説明できる。 ・失認の訓練の基本原則について説明できる。		
4	半側空間無視について (藤部)				・半側空間無視の定義・症状について説明できる。 ・半側空間無視の評価内容と手順を説明できる。 ・半側空間無視の訓練の基本原則について説明できる。		
5	記憶障害について (藤部)				・記憶障害の定義・分類について説明できる。 ・記憶障害の評価について説明できる。 ・記憶障害の訓練の基本原則について説明できる。		
6	注意障害について((藤部)				・注意障害の定義・分類について説明できる。 ・注意障害の評価について説明できる。 ・注意障害の訓練の基本原則について説明できる。		
7	遂行機能障害について (藤部)				・遂行機能障害の定義・分類について説明できる。 ・遂行機能障害の評価について説明できる。 ・遂行機能障害の訓練の基本原則について説明できる。		
8	成人コミュニケーション障害の概論と失語症 (院内言語聴覚士)				・成人における他のコミュニケーション障害と失語症との違いについて理解する。 ・失語症の症状を理解する。 ・失語症の下位タイプを理解する。 ・失語症に関する評価方法を学ぶ。 ・失語症者とのコミュニケーション方法を学び、その工夫について考える。		
履修上の 留意点							
授業形態	講義						
教科書	標準作業療法学 専門分野 高次機能障害(医学書院)						
参考書	作業療法学全書 作業治療学5 高次脳機能障害(協同医書) 高次脳機能障害の作業療法(三輪書店) 高次脳機能障害学 第2版(医歯薬出版)						
評価方法	筆記試験(藤部)、レポート課題(非常勤講師)						
担当講師の 実務経験	病院で作業療法および言語療法に従事						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	義肢装具学				担当講師 担当教員	非常勤講師 塩谷 絵梨、嵯峨 守人	
学年および学科	3年生OT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	義手および義足について理解を深める。						
授業計画(テーマ)					授業内容(行動目標)		
1	切断の概要 (塩谷)				切断者の概要、原因、最近の傾向について理解および説明することができる。 切断部位の選択因子・原則について理解および説明することができる。 断端とは何か理解し、ケアについて理解し説明することができる。 切断・離断部位の機能的特徴について理解および説明することができる。		
2	切断術後の義肢装着法について (塩谷)				義肢装着時期・装着法について理解および説明することができる。 切断の原因疾患についての特徴や障害像など理解し説明することができる。		
3	義手について (塩谷)				義手の分類と基本的構成要素について理解および説明することができる。 ソケット・手先具・継手・ハーネス・制御装置の種類や特徴・機能について理解および説明することができる。 切断レベル別に義手の種類をあげることができる。		
4	切断者に対する作業療法プログラムについて (塩谷)				義手装着前訓練のリハビリの流れについて理解および説明することができる。 義手の操作方法について理解および説明することができる。		
5	上肢切断者の評価, 義手装着訓練 (非常勤講師)				切断者のリハビリテーションの意味, 装着前訓練を理解する。		
6	能動義手の訓練 (中村、佐藤)				能動義手の種類の名称・構造・装着方法, 一般的な操作の仕方, ADL, 職場活用を理解する。		
7	筋電義手の訓練 (中村、佐藤)				筋電義手の種類の名称・構造・装着方法, 一般的な操作の仕方, ADL, 職場活用を理解する。		
8	能動義手評価(チェックアウト)演習 (非常勤講師)				能動義手評価としてデモ義手装着し, チェックアウトを行い, 意味, 方法を義手の構造の理解とともに深める。		
9	義足について 義足装着者に対するリハビリテーションおよびADL指導について (嵯峨)				義足についての概略を説明できる 義足装着者のリハビリテーションおよびADL指導について説明できる		
履修上の留意点	中村・佐藤:義手の訓練, 各部品の名称と役割を理解しておく 嵯峨:塩谷教員担当分で履修する切断者の概況について復習しておくこと						
授業形態	講義、見学、グループ討議、実技実習						
教科書	義肢装具のチェックポイント 医学書院 義肢装具と作業療法 評価から実践まで 医歯薬出版株式会社						
参考書	作業療法学全書[改訂第3版] 第9巻 作業療法技術学1 義肢装具学 協同医書出版社 切断と義手第2版 医歯薬出版株式会社 医師薬出版株式会社 義肢学 第3版 日本義肢装具学会 リハビリテーション 義肢装具学 メジカルビュー						
評価方法	期末試験 塩谷(65点)、嵯峨(10点) レポート 非常勤講師(25点)						
担当者の実務経験	塩谷、非常勤講師:病院で身体障害領域の作業療法に従事 嵯峨:病院で理学療法に従事						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	職業前関連活動					担当教員 担当講師	奥 登貴子、梅田 雄嗣 非常勤講師
学年および学科	3年生OT	単位	1	総時間数	30時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	職業前関連活動についてその概要およびその実際を学ぶ。また、障害別の就労支援について学ぶ。						
授業計画(テーマ)					授業内容(行動目標)		
1	職業について(奥)				・人にとって職業とはいかなる意味のある行為なのかを理解し、説明できる。		
2	障害者の就労について(奥)				・障害者にとっての職業の意義について説明できる。 ・障害者の就労制度について説明できる。		
3	就労支援(奥)				・就労支援についての基本的な考え方を説明できる。 ・職業関連活動における作業療法士の役割を理解し、説明できる。		
4	就労支援における職業評価(梅田)				・職業評価の目的と方法について理解できる。 ・職業評価体験を通じて、就労支援における作業療法の役割を理解できる。		
5	精神障害者の障害特性 精神障害者に対する作業療法アプローチ 就労支援の実際(梅田)				・精神障害者における職業の意味や難しさについて理解できる。 ・精神障害者に対する就労支援プログラムの紹介を通じて、作業療法士の視点、役割、アプローチ方法について理解できる。		
6	職業リハビリテーションの実際 (非常勤講師)				・総合拠点方式の就労支援サービスを知る ・事例で学ぶ支援のノウハウ ・職業リハビリテーション(職リハ)の基本戦略 ・障害者雇用に関する社会資源 ・就業支援サービスにおける専門職の役割		
履修上の 留意点	・2年次の作業療法評価学精神障害・作業治療学精神障害Ⅱで学習した内容と、3年次の地域作業療法学演習で学習する内容が関連するので、整理して授業に臨むこと。 ・医療職からの視点ではなく、福祉職(関連職種)の視点を持つこと。 ・今の自分の考え、感覚ではなく、利用者の視点をイメージすること。特に違う世代(中高年)の立場に立ち、病気や事故で「普通の生活」が奪われた喪失感、社会からの疎外感をイメージする。 ・「自分にとって、仕事とは何か?」「私は、何故働くのか?」の間に、向き合ってみる。						
授業形態	講義、演習、ビデオ放映(パソコン上で再生)、パワーポイント						
教科書	作業療法学全書[改定第3版] 第12巻 職業関連活動 平賀昭信・岩瀬義昭編集 協同医書出版社						
参考書	適宜紹介する						
評価方法	期末試験、学習後レポート						
担当者の 実務経験	奥:総合リハビリテーションセンターで障害者の就労支援に従事 梅田:病院で精神障害者の就労支援に従事						

授 業 要 項

2019年度

授業科目	地域作業療法学 演習			担当講師 担当教員	非常勤講師、院内医療社会事業専門員、院内言語聴覚士、 院内管理栄養士、水野 準也、梅田 雄嗣		
学年および学科	3年生OT	単位	2	総時間数	60時間	履修時期	前期
教育目標 及び概要 (一般目標)	地域リハビリテーションを考える上で、必要な事項を講義や実習、施設見学を通して学ぶ。						
授業計画(テーマ)				授業内容(行動目標)			
1	地域リハビリテーションと介護予防の現状 (非常勤講師)			地域リハビリテーション、介護予防の現状を知る			
2	スイッチの適合方法、製作改造実習 (非常勤講師)			生活支援機器とスイッチの役割、スイッチの適合に関する基礎知識、操作スイッチと各種機器の操作演習、操作スイッチの製作実習、BDアダプタの製作とおもちゃの改造実習、コミュニケーション拡大のための情報機器の活用、事例検討、まとめ			
3	住宅改修を考える際に必要な建築技術 (非常勤講師)			建築構造基礎、建築内部仕上基礎、建築設備基礎			
4	国際協力における作業療法 (非常勤講師)			・ルーマニアでの青年海外協力隊活動紹介 ・日本作業療法士協会国際部紹介			
5	栄養管理の実際 (院内管理栄養士)			三大栄養素、ビタミン、ミネラルについて リハビリテーション+栄養の併用による期待される事柄について 摂食、嚥下関連における栄養の役割について			
6	医療社会事業専門職(MSW)の実際 (院内医療社会事業専門員)			・医療ソーシャルワーカーの業務を知る ・社会資源とその活用について知る			
7	嚥下障害と評価及びリハビリテーション (院内言語聴覚士)			・摂食嚥下とは何か ・摂食嚥下障害の病態 ・摂食嚥下障害の原因 ・摂食嚥下機能の検査・評価 ・摂食嚥下リハビリテーションについて			
8	地域リハビリテーションの各領域の目的(梅田)			各領域(入所、通所、訪問、訓練、予防)におけるリハビリテーションの目的について説明できる。			
9	福祉用具・補装具・住宅改修 (水野)			介護保険制度と障害者総合支援法における福祉用具の給付・貸与の違いについて理解することができる。また、作業療法士が行う住宅改修について理解することができる。			
10	地域リハビリテーションにおける取り組みの実際と 作業療法士の関わり (梅田)			文献抄読を通して、幅広い観点から地域リハビリテーションの実践を学び、作業療法士の可能性について考えることができる。			
11	施設見学① (梅田) (介護保険サービス・社会復帰関連施設)			各グループで老人保健施設、介護保険サービス、社会復帰関連施設の実際を見聞し、各施設の役割や概況、施設概要について知識と理解を深めることができる。			
12	施設見学② (梅田) (愛知障害者職業センター)			施設見学を通し、障害者職業センターの役割と業務内容を理解することができる。障害者における職業リハビリテーションの実際を見聞し、知識と理解を深めることができる。			
13	レクリエーション総論 (水野)			レクリエーションの定義、OTでのレクリエーションの対象および目的を理解することができる。 レクリエーションを実施する上での、構成、評価、レクリエーション計画の方法を理解することができる。			
14	レクリエーション計画 (水野)			介護老人保健施設におけるレクリエーション計画書の作成およびレクリエーションの準備をすることができる。			
15	介護老人保健施設とOTの役割(施設見学) (非常勤講師)			介護老人保健施設の実際を見聞し、施設の役割や概況、施設概要について知識と理解を深めることができる。 老人保健施設での作業療法士の役割を理解することができる。			
履修上の 留意点	非常勤講師:乾電池(単3形か単4形)で動くおもちゃを各自用意してください(全員)。iPadまたはiPhoneを持ってくる人(持っている人のみで良い)。 非常勤講師:初めて聞く内容だと思います。レポートを作成する際に、良く調べて理解を深める努力をして下さい。 水野・梅田:地域社会資源関連とレクリエーション関連に大別される。この授業においては、施設見学、レクリエーション実習など学院外での授業が主となる。事前に、詳細についてオリエンテーションがあるため、各々が内容をきちんと把握すること。						
授業形態	講義 パワーポイント グループワーク 施設見学 実習						
教科書	配布資料等						
参考書	授業時に提示						
評価方法	レポート提出状況とレポート内容、発表内容にて評価する。						
担当者の 実務経験	非常勤講師:作業療法士として海外青年協力隊業務、老人保健施設にて介護保険領域の作業療法に従事 水野・梅田:病院で作業療法に従事						